

## 【背景と目指す姿】

- 塩野谷農業協同組合ねぎ部会(高根沢支部)は栽培面積2.1haの小規模産地であり、生産者の多くは秋冬ねぎ作付け50a未満と小規模であるため、出荷量が少ないのが弱点である。
- 一方で、新規導入者や規模拡大志向者が増えており、**機械化体系の強化や、新規栽培者を中心に周年栽培への取り組みや販路拡大への意向も強い。**
- そこで、新規栽培者が導入しやすい機械化体系の整備、既存生産者を含めた技術向上、出荷調整作業の省力化、新たな販路確保のための食品企業等との契約取引拡大等に取り組み、これまでの**秋冬ねぎ中心の産地から、周年出荷ができる産地化**を目指す。

## 1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成29(2017)年度):2.1ha → 目標(令和2(2020)年度):8.0ha

## 2 主な取組内容(平成30(2018)～令和2(2020)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規栽培者確保のための各種取組み</li> <li>・新規導入者の技術向上のための機械実演会や熟練生産者による作業実演等</li> <li>・周年出荷に向けた講習会や検討会等の開催</li> <li>・排水対策の実施</li> </ul>
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規模拡大志向農家の生産機械導入と機械化一貫体系モデル経営体の育成</li> <li>・スケールメリットを生かせる秋冬作以外(春作・夏作)の品種の実証展示</li> <li>・中小規模の複数部会員の共同調整選別体制の整備</li> <li>・シルバー人材センターへの求人募集等による雇用の確保</li> </ul>
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存販路、契約取引の確保・拡大のための市場調査</li> <li>・販路拡大のための食品企業との情報交換会の実施</li> <li>・県の加工・業務用露地野菜産地クラスター育成モデル事業等を活用した新たな販路の確保</li> </ul>



写真上 自作機械を使った土入れ実演会の様子  
写真下 産地のねぎ